

最上位標目:[アルカ文法史](#)

上位標目:[方言, 第十一期新生アルカ](#)

境方語とは2008年12月9日[第十一期新生アルカ](#)で作られたフィクションの人工言語である。アルカット大陸中部南岸、メティオ(metio)、ソーナ(sorna)、カルカヒ(kalkahi)の諸国で話される。(初出:[境方語](#) 2008/12/09 (火) 16:47:25)

後期制アルカ時代にできた**メテ方言**の後身にあたり、声調を持つという共通点はあるが、声調の種類や声調が発生する法則も異なっている。

音声

声調

メテ方言では軽声を合わせて全5種類だったが、昇音が消滅して4種類である。法則も簡略化されている。

1声：軽声。声調を持たない。機能語になる。時相詞、se, a, i, kaなど。

2声：高声。高く平坦。子音を減じない場合に2声になる。kuはku2。

3声：降声。高いところから低いところへ降りる。有声子音を減じたときに現れる。減じるのは最後の子音。kim ki3, aml am3, non no3, spel spe3

4声：低声。低く平坦。無声子音を減じたときに現れる。減じるのは最後の子音。kit ki4, sems sem4

2声が続くと、音の高さは一段ごとに落ちる。

ridia ri2dia2

(初出:[境方語](#) 2008/12/09 (火) 16:47:25)

文字

声調記号が付く。([境方語](#) 2008/12/09 (火) 16:47:25)



http://jjgfbg.bay.livefilestore.com/y1p3Qyr0jyfKP0Of8FBi4CVO6o4WmoDBj8KPSWRTwg32gTL_qGREbKgxRdX_1c5Pnkro_UMPqGEQk/metio.gif

文法

繋辞

繋辞はetでなくde1, 否定はden1,
deを否定と混同しないように。
(**境方語** 2008/12/09 (火) 16:47:25)

時相詞

制アルカ同様時相詞を使う。ただし順序は逆で[相 時制]になる。動詞の後に1声で続ける。

過去 現在/通時 未来

a i o

なし 将前 開始 経過 完了 影響

w p t s k n

ke2wa1 行った lu4si1 歩いている lu2na2ki1 来た sa3ni1 着てある

用例を見る限り、無相かつ無時制の場合、時相詞が見つからない。

fi4 与える

([境方語](#) 2008/12/09 (火) 16:47:25)

格詞

a ~へ、~まで(alにならない)

i ~から(itにならない)

ma ~のときに(im)

lo ~の場合(lo)

e ~の(nalt t'arbaのようにt'にならない, nal4 e1 a3ba2)

([境方語](#) 2008/12/09 (火) 16:47:25)

実例

metio et flon i fremazer = me2tio2 de1 flo3 i1 fre2ma2ze3.

ren fit tu a non = re3 fi4 tu2 a1 no3.

la ket felka = la2 ke2 wa1 fe3ka2.

([境方語](#) 2008/12/09 (火) 16:47:25)

参考資料

セレン = アルバザード "[metio.gif](#)"

[人工言語アルカ](#) > [境方語](#) 2008/12/09 7:45 GMT

境方語の声調。

セレン = アルバザード "[direi.mp3](#)"

[人工言語アルカ](#) > [境方語](#) 2008/12/09 7:39 GMT

境方語の音声。

最上位標目:[アルカ文法史](#)

上位標目:[方言](#), [第十一期新生アルカ](#)